

第 34 回地方独立行政法人鳥取県産業技術センター評価委員会議事録

1. 開催の日時 平成 28 年 5 月 25 日（水）午後 3 時 30 分～午後 5 時
2. 開催の場所 鳥取県庁第二庁舎第 2 1 会議室
3. 出席者氏名 出席者名簿のとおり
4. 会議の概要
 - (1) 今年度の評価委員会スケジュールについて
資料 1（事務局配布資料）について説明。
 - (2) 平成 28 年度計画に関するセンターヒアリング
 - パワーポイント及び資料 1「鳥取県産業技術センター 平成 28 年度計画」（センター配布資料）について鳥取県産業技術センター（以後、センター）より説明
 - 主な質問及び意見
 - ・ 数多く企業から寄せられる相談件数に対してどのように対応しているのか。
→（センター回答）
 - ・ 相談に対する回答率は 100%。相談に対して、センターだけで解決できない課題に対しては専門家等の紹介や、ヒントとなる情報提供など、何らかの寄与ができるように回答している。それら対応を重ねることもセンターの人材育成及びレベルアップにつながると考える。
 - ・ 自動車、航空部品などの次世代デバイス、医療機器関連について、県の施策も踏まえてセンターにて重点的に対応予定としているが、センターにて今後どのように人材育成や採用をしていくのか。
→（センター回答）
 - ・ 新しい取り組みとして、包括的ものづくり技術支援事業「スーパーエンジニアリングサポート」を計画しており、機械工学だけでなくエレクトロニクスの周辺技術に対しても研究員が課題をもち試作を通してレベルアップを図っていきたい。現在は、他県の状況を情報集しながらテーマ設定等しているところ。
 - ・ 鳥取県戦略産業雇用創造プロジェクトにて個別企業を支援する際には、セ

センターの担当職員も同行するなどして、今後の技術課題の解決支援を連携して取り組むことで、現場での人材育成にもつなげている。

- ・ 新たな技術課題に対して食品工学等の今までにない分野の人材募集もしていきたい。

- ・ 県による新規誘致企業と共同研究などの展開はすでにあるか。

→ (センター回答)

- ・ 誘致企業とは、共同研究も含めてすでに様々な分野での連携について検討している。センターとの連携が県内企業に波及していくことが重要であり、誘致企業本社の技術者とセンターの技術者が話し合い、何か広がりを見せる線を探し出したいと思っている。

(3) 平成 27 年度 鳥取県産業技術センター実績評価の方法について

資料 (事務局配布資料) について説明。

* 昨年度とは評価方法が異なること等を説明。

- ・ 年度計画のレビューをシステムがあった方が良いのではないか。

→ (事務局回答)

- ・ 年度計画を承認する仕組みではないが助言は可能。また、センターが自主的に変更することも可能である。